

# 登録販売者試験 問題集

令和7年版

南関東編

(東京・埼玉・千葉・神奈川)

◆厚生労働省「試験問題の作成に関する手引き  
(令和4年3月作成、令和6年4月一部改訂)」対応

## 目次

☑ 1. 令和6年度(2024年)	問題	5
	正解&解説	33
☑ 2. 令和5年度(2023年)	問題	41
	正解&解説	69
☑ 3. 令和4年度(2022年)	問題	77
	正解&解説	103
☑ 4. 令和3年度(2021年)	問題	111
	正解&解説	137
☑ 5. 令和2年度(2020年)	問題	145
	正解&解説	171

公論出版

〔医薬品に共通する特性と基本的な知識〕

【1】 医薬品の本質に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a. 医薬品は、製造販売業者による製品回収等の措置がなされることがあるので、医薬品の販売等を行う者は、製造販売業者等からの情報に日頃から留意しておくことが重要である。
- b. 医薬品は、効能効果、用法用量、副作用等の必要な情報が適切に伝達されることを通じて、購入者等が適切に使用することにより、初めてその役割を十分に発揮するものである。
- c. 医薬品医療機器等法では、健康被害の発生の可能性の有無にかかわらず、異物等の混入、変質等がある医薬品を販売等してはならない旨を定めている。
- d. 医薬品は、市販後にも、その安全性の確認が行われる仕組みとなっているが、その有効性については市販前に十分確認されているため、市販後に確認は行われない。

	a	b	c	d
<input checked="" type="checkbox"/>	1. 正	正	正	誤
	2. 正	誤	誤	正
	3. 誤	誤	正	正
	4. 誤	正	誤	誤
	5. 正	誤	正	誤

【2】 医薬品の本質に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a. 医薬品が人体に及ぼす作用は複雑、かつ、多岐に渡り、好ましくない反応（副作用）を生じる場合もある。
- b. 検査薬の検査結果については、正しい解釈や判断がなされなくても、適切な治療を受ける機会を失うおそれはない。
- c. 一般用医薬品は、医薬品医療機器等法の対象となるが、製造物責任法（平成6年法律第85号）の対象とはならない。
- d. 一般用医薬品は、医療用医薬品と比較して保健衛生上のリスクは相対的に高い。

	a	b	c	d
<input checked="" type="checkbox"/>	1. 正	誤	正	誤
	2. 誤	誤	正	正
	3. 正	誤	誤	誤
	4. 正	正	誤	正
	5. 誤	正	誤	誤

【3】 医薬品のリスク評価に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a. ヒトを対象とした臨床試験の実施の基準には、国際的に Good Clinical Practice（GCP）が制定されている。
- b. 医薬品の投与量と効果の関係は、薬物用量の増加に伴い、効果の発現が検出されない「無作用量」から、最小有効量を経て「治療量」に至る。
- c. Good Vigilance Practice（GPV）とは、医薬品に対する製造販売後の調査及び試験の実施の基準である。
- d. 医薬品の効果とリスクは、用量と作用強度の関係（用量－反応関係）に基づいて評価される。

	a	b	c	d
<input checked="" type="checkbox"/>	1. 正	正	正	正
	2. 誤	誤	正	正
	3. 正	正	誤	正
	4. 正	誤	正	誤
	5. 誤	正	誤	誤

【4】 健康食品に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a. カプセル、錠剤のような医薬品に類似した形状の健康食品は、販売されていない。
- b. 機能性表示食品は、身体の生理機能などに影響を与える保健機能成分を含むもので、個別に（一部は規格基準に従って）特定の保健機能を示す有効性や安全性などに関する国の審査を受け、許可されたものである。
- c. 栄養機能食品は、国が定めた規格基準に適合したものであれば、その食品に含まれるビタミン、ミネラル等の栄養成分の健康機能を表示できる。
- d. 健康食品は、法的にも、安全性や効果を担保する科学的データの面でも医薬品とは異なることを十分理解しておく必要がある。

	a	b	c	d
<input checked="" type="checkbox"/>	1. 正	正	正	誤
	2. 正	誤	誤	誤
	3. 誤	正	誤	正
	4. 誤	誤	正	正
	5. 誤	正	正	誤

## 〔人体の働きと医薬品〕

【21】消化系に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a. 食道は、喉もとから上腹部のみぞおち近くまで続く、直径1～2cmの管状の器官で、消化液の分泌腺がある。
- b. ペプシンノーゲン<sup>ペプシン</sup>は、胃酸によって主に炭水化物を消化する酵素であるペプシンとなり、胃酸とともに胃液として働く。
- c. 胃粘液に含まれる成分は、小腸におけるビタミンB12の吸収に重要な役割を果たしている。
- d. 小腸は、全長6～7mの管状の臓器で、十二指腸、空腸、盲腸の3部分に分かれる。

	a	b	c	d
<input checked="" type="checkbox"/>	1. 正	正	正	誤
	2. 正	誤	誤	正
	3. 誤	誤	正	誤
	4. 正	誤	誤	誤
	5. 誤	正	誤	正

【22】消化系に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a. 肝臓は、脂溶性ビタミンであるビタミンA、D等や水溶性ビタミンであるビタミンB6、B12等の貯蔵臓器である。
- b. 膵臓は、胃の後下部に位置する臓器で、弱酸性の膵液や血糖値を調節するホルモンを分泌する。
- c. 大腸の腸内細菌は、血液凝固や骨へのカルシウム定着に必要なビタミンKを産生している。
- d. 肛門周囲には静脈が細かい網目状に通っていて、肛門周囲の組織がうっ血すると痔の原因となる。

	a	b	c	d
<input checked="" type="checkbox"/>	1. 正	誤	正	正
	2. 正	正	正	誤
	3. 正	誤	誤	誤
	4. 誤	正	正	誤
	5. 誤	正	誤	正

【23】呼吸系に関する次の記述のうち、正しいものの組合せはどれか。

- a. 鼻腔から気管支までの呼気及び吸気の通り道を気道といい、そのうち、咽頭・喉頭までの部分を上気道という。
- b. 咽頭は、鼻腔と口腔につながっているが、消化管には属さない。
- c. 喉頭の後壁にある扁桃は、リンパ組織が集まってできていて、気道に侵入してくる細菌、ウイルス等に対する免疫反応が行われる。

- d. 肺の内部で気管支が細かく枝分かれし、末端はブドウの房のような構造となっており、その球状の袋部分を肺胞という。

<input checked="" type="checkbox"/>	1. a、b	2. a、c	3. a、d
	4. b、c	5. c、d	

【24】循環系に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a. 心臓が収縮したときの血圧を最大血圧、弛緩したときの血圧を最小血圧という。
- b. 静脈にかかる圧力は比較的低いため、静脈の血管壁は動脈よりも薄い。
- c. 好中球は、白血球の約1/3を占め、細菌、ウイルス等の異物を認識したり、それらに対する抗体を産生する。
- d. 血漿中のアルブミンは、その多くが、免疫反応において、体内に侵入した細菌やウイルス等の異物を特異的に認識する抗体としての役割を担う。

	a	b	c	d
<input checked="" type="checkbox"/>	1. 正	正	正	誤
	2. 正	正	誤	誤
	3. 正	誤	誤	正
	4. 誤	正	正	正
	5. 誤	誤	正	誤

【25】泌尿系に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a. 女性は尿道が短いため、細菌などが侵入したとき膀胱まで感染を生じやすい。
- b. 膀胱の出口にある膀胱括約筋が緩むと、同時に膀胱壁の排尿筋が収縮し、尿が尿道へと押し出される。
- c. ネフロンは、腎小体と尿管とで構成される、腎臓の基本的な機能単位である。
- d. 副腎皮質ホルモンの一つであるアルドステロンは、体内にカリウムと水を貯留し、塩分の排泄を促す作用があり、電解質と水分の排出調節の役割を担っている。

	a	b	c	d
<input checked="" type="checkbox"/>	1. 正	正	正	誤
	2. 正	誤	誤	正
	3. 誤	正	正	正
	4. 誤	誤	正	正
	5. 誤	正	誤	誤

【59】医薬品の販売方法に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a. 在庫処分等の販売側の都合で、異なる複数の医薬品をあらかじめ組み合わせて販売してもよいとされている。
- b. 医薬品の販売等に従事する専門家は、医薬品を多量に購入する者に対して、積極的に事情を尋ねるなど慎重に対処し、状況によっては販売を差し控えるべきである。
- c. 配置販売業において、医薬品を先用後利によらず現金売りを行うことは、顧客の求めに応じた物であれば医薬品医療機器等法違反には当たらない。
- d. 医薬品を懸賞や景品として授与することは、原則として認められていない。

	a	b	c	d
<input checked="" type="checkbox"/> 1.	正	正	正	誤
2.	誤	誤	正	正
3.	正	誤	誤	正
4.	誤	正	誤	正
5.	誤	正	誤	誤

【60】医薬品医療機器等法に基づく行政庁による監視指導及び処分に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。なお、本設問において、「都道府県知事」とは、「都道府県知事（薬局又は店舗販売業にあっては、その薬局又は店舗の所在地が保健所を設置する市又は特別区の区域にある場合においては、市長又は区長）」とする。

- a. 都道府県知事は、薬事監視員に、店舗販売業者が医薬品を業務上取り扱う場所に立ち入らせ、無承認無許可医薬品、不良医薬品又は不正表示医薬品等の疑いのある物を、試験のため必要な最少分量に限り、収去させることができる。
- b. 都道府県知事は、配置販売業の配置員が、その業務に関し、医薬品医療機器等法若しくはこれに基づく命令又はこれらに基づく処分に違反する行為があったときは、その配置販売業者に対して、期間を定めてその配置員による配置販売の業務の停止を命ずることができる。
- c. 都道府県知事は、薬事監視員に、薬局開設者又は医薬品の販売業者が医薬品を業務上取り扱う場所に立ち入らせ、帳簿書類を収去させることができる。
- d. 薬局開設者や医薬品の販売業者が、薬事監視員による立入検査や収去を拒んだり、妨げたり、忌避した場合については、罰則の規定が設けられている。

	a	b	c	d
<input checked="" type="checkbox"/> 1.	正	誤	誤	誤
2.	正	誤	正	正
3.	誤	誤	正	正
4.	誤	正	正	誤
5.	正	正	誤	正

## 令和6年度(2024年) 午後

〔主な医薬品とその作用〕

【61】かぜ（感冒）及びかぜ薬（総合感冒薬）に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a. かぜは単一の疾患ではなく、医学的にはかぜ症候群といい、主に細菌が鼻や喉などに感染して起こる上気道の急性炎症の総称で、通常は数日～1週間程度で自然寛解し、予後は良好である。
- b. かぜとよく似た症状が現れる疾患に、喘息、アレルギー性鼻炎、リウマチ熱、関節リウマチ、肺炎、肺結核、髄膜炎、急性肝炎、尿路感染症等がある。

- c. 発熱、咳、鼻水など症状がはっきりしている場合には、症状を効果的に緩和させるため、解熱鎮痛薬、鎮咳去痰薬、鼻炎を緩和させる薬などを選択することが望ましい。
- d. かぜ薬に配合される生薬成分であるマオウは、メチルエフェドリン塩酸塩と同様の作用を示す。

	a	b	c	d
<input checked="" type="checkbox"/> 1.	誤	正	正	正
2.	誤	正	誤	誤
3.	誤	誤	正	正
4.	正	誤	誤	正
5.	正	誤	正	誤

**【62】 かせ薬（総合感冒薬）の配合成分とその配合目的の組合せのうち、正しいものの組合せはどれか。**

- | 配合成分               | 配合目的                         |
|--------------------|------------------------------|
| a. メキタジン……………      | 発熱を鎮め、痛みを和らげる                |
| b. グリチルリチン酸二カリウム…… | 炎症による腫れを和らげる                 |
| c. サリチルアミド……………    | 痰 <small>たん</small> の切れを良くする |
| d. ノスカピン……………      | 咳を抑える                        |
1. a、b      2. a、c      3. b、c  
4. b、d      5. c、d

**【63】 解熱鎮痛薬及びその配合成分等に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。**

- a. アセトアミノフェンは、主として中枢作用によって解熱・鎮痛をもたらすため、末梢における抗炎症作用は期待できない。
- b. イソプロピルアンチピリンは、解熱及び鎮痛の作用は比較的強いが、抗炎症作用は弱いため、他の解熱鎮痛成分と組み合わせて配合される。
- c. エテンザミドは、他の解熱鎮痛成分に比べ、痛みが神経を伝わっていくのを抑える働きが強いため、他の解熱鎮痛成分と組み合わせて配合してはならないとされている。
- d. アスピリン喘息ぜんは、アスピリン特有の副作用ではなく、他の解熱鎮痛成分でも生じる可能性がある。
- |  | a | b | c | d |
|--|---|---|---|---|
| <input checked="" type="checkbox"/> 1. | 正 | 正 | 正 | 誤 |
| 2.                                     | 正 | 誤 | 誤 | 正 |
| 3.                                     | 正 | 正 | 誤 | 正 |
| 4.                                     | 誤 | 正 | 誤 | 誤 |
| 5.                                     | 誤 | 誤 | 正 | 正 |

**【64】 鎮痛の目的で用いられる漢方処方製剤に関する次の記述のうち、正しいものの組合せはどれか。**

- a. 桂枝加朮附湯けいしけじゆつぶとうは、体力中等度で、痛みがあり、ときにしびれがあるものの関節痛、神経痛、腰痛、筋肉痛に適すとされるが、消化器系の副作用（食欲不振、胃部不快感等）が現れやすい等の理由で、胃腸が弱く下痢しやすい人には不向きとされる。
- b. 釣藤散ちようとうさんは、体力中等度で、慢性に経過する頭痛、めまい、肩こりなどがあるものの慢性頭痛、神経症、高血圧の傾向のあるものに適すとされるが、胃腸虚弱で冷え性の人には不向きとされる。
- c. 呉茱萸湯ごしゆいとうは、体力中等度以下で、手足が冷えて肩がこり、ときにみぞおちが膨満するものの頭痛、頭痛に伴う吐きけ・嘔吐おうと、しゃっくりに適すとされる。

- d. 芍薬甘草湯しやくやくかんざうとうは、体力虚弱で、汗が出、手足が冷えてこわばり、ときに尿量が少ないものの関節痛、神経痛に適すとされる。

1. a、b      2. a、c      3. b、c  
4. b、d      5. c、d

**【65】 眠気を促す薬及びその配合成分に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。**

- a. 抗ヒスタミン成分を主薬とする催眠鎮静薬は、一時的な睡眠障害（寝つきが悪い、眠りが浅い）の緩和に使用されず、慢性的に不眠症状がある人や、医療機関において不眠症の診断を受けている人に使用される。
- b. プロモバレリル尿素を含有する催眠鎮静薬は、胎児に障害を引き起こさないため、妊婦の睡眠障害の緩和に適している。
- c. 妊娠中にしばしば生じる睡眠障害は、ホルモンのバランスや体型の変化等が原因であり、睡眠改善薬の適用対象ではない。
- d. 柴胡加竜骨牡蛎湯さいこかりゅうこつぼれいとうは、体力中等度以下で、心身が疲れ、血色が悪く、ときに熱感を伴うものの貧血、不眠症、精神不安、神経症に適すとされる。

- |  | a | b | c | d |
|--|---|---|---|---|
| <input checked="" type="checkbox"/> 1. | 誤 | 誤 | 正 | 誤 |
| 2.                                     | 正 | 誤 | 正 | 誤 |
| 3.                                     | 正 | 正 | 誤 | 誤 |
| 4.                                     | 誤 | 正 | 正 | 正 |
| 5.                                     | 誤 | 誤 | 誤 | 正 |

**【66】 眠気防止薬及びその配合成分に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。**

- a. カフェインの血中濃度が最高血中濃度の半分に低減するのに要する時間は、通常の成人が約3.5時間であるのに対して、乳児では約80時間と非常に長い。
- b. 授乳中の女性がカフェインを大量に摂取したり、カフェインを連用したりした場合には、乳児の体内にカフェインが蓄積して、頻脈や不眠等を引き起こす可能性がある。
- c. 成長期の小児の発育には睡眠が重要であることから、小児用の眠気防止薬はない。
- d. カフェインの眠気防止に関連しない作用として、腎臓におけるナトリウムイオン（同時に水分）の再吸収促進作用があり、尿量の増加（利尿）をもたらす。

- |  | a | b | c | d |
|--|---|---|---|---|
| <input checked="" type="checkbox"/> 1. | 正 | 正 | 正 | 正 |
| 2.                                     | 誤 | 正 | 正 | 正 |
| 3.                                     | 正 | 誤 | 正 | 正 |
| 4.                                     | 正 | 正 | 誤 | 正 |
| 5.                                     | 正 | 正 | 正 | 誤 |

〔医薬品に共通する特性と基本的な知識〕

【1】1 (a. 正 : b. 正 : c. 正 : d. 誤)

〔解説〕 d. 医薬品は、市販後にも、医学・薬学等の新たな知見、使用成績等に基づき、その有効性、安全性等の確認が行われる仕組みになっている。

【2】3 (a. 正 : b. 誤 : c. 誤 : d. 誤)

〔解説〕 b. 検査薬の検査結果について、正しい解釈や判断がなされなければ、医療機関を受診して適切な治療を受ける機会を失うおそれがある。

c. 一般用医薬品として販売される製品は、製造物責任法(PL法)の対象でもある。

d. 一般用医薬品は、医療用医薬品と比較して保健衛生上のリスクは相対的に低い。

【3】3 (a. 正 : b. 正 : c. 誤 : d. 正)

〔解説〕 c. 「Good Vigilance Practice (GVP)」⇒「Good Postmarketing Study Practice (GPSP)」。  
GVPは、製造販売後安全管理の基準である。

【4】4 (a. 誤 : b. 誤 : c. 正 : d. 正)

〔解説〕 a. 健康食品は、その多くが摂取しやすいように錠剤やカプセル等の医薬品に類似した形状で販売されている。

b. 記述の内容は、特定保健用食品。機能性表示食品は、事業者の責任で科学的根拠をもとに疾病に罹患していない者の健康維持及び増進に役立つ機能を商品のパッケージに表示するものとして国に届出された商品であり、国の個別の許可を受けたものではない。

【5】1 (a. 正 : b. 正 : c. 正 : d. 正)

【6】3

〔解説〕 3. 一般用医薬品は、通常、その使用を中断することによる不利益よりも、重大な副作用を回避することが優先されるため、その兆候が現れたときには基本的にその使用を中止する。

【7】3 (a. 誤 : b. 正 : c. 正 : d. 正)

〔解説〕 a. 青少年は、薬物乱用の危険性に関する認識や理解が必ずしも十分でなく、薬物を興味本位で乱用することがあるので、注意が必要である。

【8】5 (a. 誤 : b. 誤 : c. 正 : d. 正)

〔解説〕 a. 医薬品の相互作用とは、複数の医薬品を併用した場合、医薬品の作用が増強したり、減弱したりすることをいう。

b. 外用薬や注射薬であっても、食品によって医薬品の作用や代謝に影響を受ける可能性がある。

【9】3 (a. 正 : b. 正 : c. 誤 : d. 誤)

〔解説〕 c. 小児は、血液脳関門が未発達であるため、吸収されて循環血液中に移行した医薬品の成分が脳に達しやすい。

d. 小児は大人と比べて身体の大きさに対して腸が長く、服用した医薬品の吸収率が相対的に高い。

【10】4 (a. 誤 : b. 正 : c. 誤 : d. 正)

〔解説〕 a. 「60歳以上」⇒「65歳以上」。

c. 生理機能の衰えの度合いは個人差が大きく、年齢のみから副作用のリスク増大の程度を判断するのは難しい。

【11】5

〔解説〕 5. 胎盤には、胎児の血液と母体の血液とが混ざらない仕組み(血液-胎盤関門)がある。

【12】2 (a. 正 : b. 誤 : c. 正)

〔解説〕 b. 生活習慣病等の慢性疾患の種類や程度によっては、一般用医薬品を使用することでその症状が悪化したリ、治療が妨げられることもある。

【13】3 (a. 誤 : b. 正 : c. 正 : d. 誤)

〔解説〕 a. プラセボ効果は、医薬品を使用したこと自体による楽観的な結果への期待(暗示効果)や、条件付けによる生体反応、時間経過による自然発生的な変化(自然緩解など)等も関与していると考えられる。

d. プラセボ効果によってもたらされる反応や変化には、望ましいもの(効果)と不都合なもの(副作用)とがある。

【14】1 (a. 正 : b. 正 : c. 誤 : d. 正)

〔解説〕 c. 医薬品は、高温や多湿、光(紫外線)等によって品質の劣化(変質・変敗)を起こしやすいものが多い。

【15】4

〔解説〕 医薬品のうち、その効能及び効果において人体に対する作用が(a:著しくない)のものであって、薬剤師その他の医薬関係者から提供された情報に基づく(b:需要者)の選択により使用されることが目的とされているもの(c:要指導医薬品)を除く。)をいう。

【16】4 (a. 誤 : b. 正 : c. 正 : d. 誤)

〔解説〕 a. 専門用語を分かりやすい平易な表現で説明し、かつ、説明した内容が購入者等にとってどう理解され、行動に反映されているかを把握しながら行う。

d. 購入者等から医薬品の使用状況のみではなく、可能な限り、購入者等の個々の状況の把握に努める必要がある。

【17】2 (a. 正 : b. 誤 : c. 誤 : d. 正)

〔解説〕 b. サリドマイド製剤は、過去に一般用医薬品(催眠鎮静剤等)として販売されていたことがある。

c. 1961年に西ドイツで警告が発せられたが、日本での出荷停止は1962年5月まで行われず、また販売停止及び回収措置は同年9月になるなど、対応が遅れた。

【18】4

〔解説〕 スモン訴訟は、(a:整腸剤)として販売されていた(b:キノホルム製剤)を使用したことにより、(c:亜急性脊髄視神経症)に罹患したことに対する損害賠償訴訟である。

【19】4 (a. 誤 : b. 誤 : c. 正)

〔解説〕 a. 「悪性貧血患者」⇒「血友病患者」。

b. HIV訴訟は、国及び製薬企業を被告として提訴された。

【20】1 (a. 誤 : b. 正 : c. 正 : d. 正)

〔解説〕 a. C型肝炎控訴は、出産や手術での大量出血などの際に特定のフィブリノゲン製剤や血液凝固第Ⅸ因子製剤の投与を受けたことにより、C型肝炎ウイルスに感染したことに対する損害賠償訴訟である。